



2027年3月期第1四半期決算説明資料

- I 2027年3月期第1四半期決算ハイライト
- II 2027年3月期第1四半期決算概要
(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)
- III 参考資料

I 2027年3月期第1四半期決算ハイライト

II 2027年3月期第1四半期決算概要

(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)

III 参考資料

'27/3期1Q 決算概況(連結)

■受注高・受注残高

受注高は、海外事業および環境エンジニアリング事業が好調に推移し、前期を上回った。

受注残高：'26/3期1Q 355,291百万円⇒'27/3期1Q 425,884百万円(+70,592百万円)

■売上高・営業利益

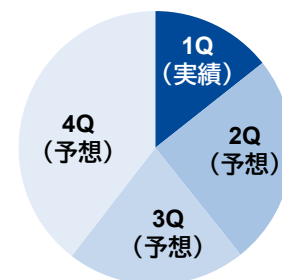
売上高は、海外事業におけるSchwing Bioset, Inc.(以下、シュウイング社)、E & P Anlagenbau GmbH(以下、E & P社)の連結影響に加え、環境エンジニアリング事業において大型建設工事が順調に推移したことなどにより増収。

営業利益は、環境エンジニアリング事業における不具合対策処理や、海外事業におけるシュウイング社の一部不採算案件の前倒し処理などにより、前期を下回った。
(概ね計画通りに進捗)

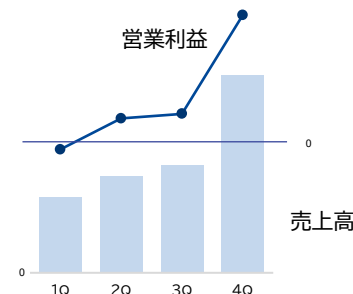
※なお、経常利益は為替差益134百万円を含む。

当社グループの事業は、国内公共事業が大半を占め、売上・利益が4Qに著しく偏る傾向があり、例年1Qの売上高は年間の15%前後。また各年度案件構成の差により多少の増減あり。

'27/3期 四半期別売上構成



<参考>'26/3期 四半期推移



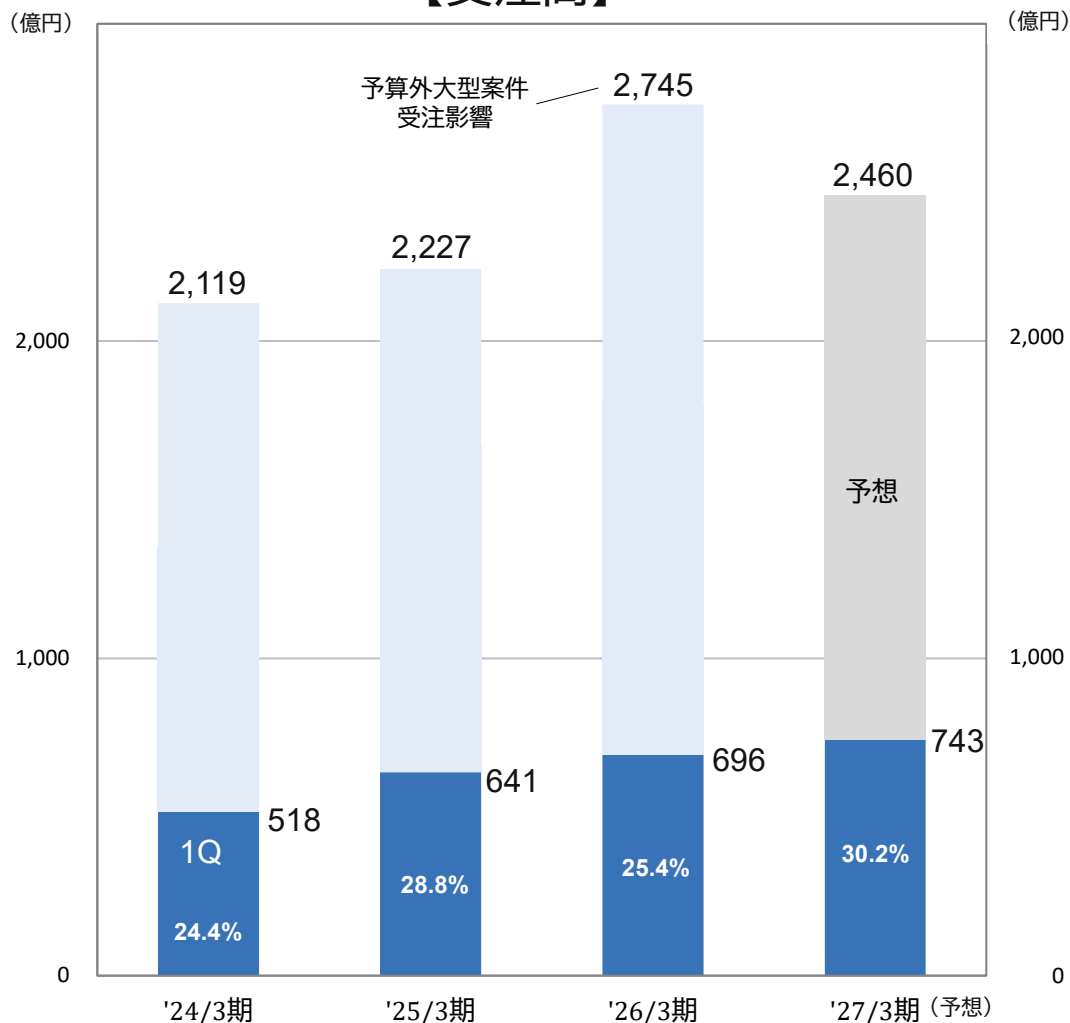
(百万円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり配当金(円)	
						第2四半期末	期末
'27/3期1Q 実績	74,262	37,677	-910	-861 ^{*1}	-711	—	—
	前期比 +4,617 +6.6%	+4,622 +14.0%	▲306 -	▲195 -	+292 -		
'26/3期1Q 実績	69,645	33,054	-603	-665 ^{*2}	-1,003	—	—
'27/3期予想 (2026年4月24日公表)	246,000	240,000	15,000	14,500	10,000	40	40

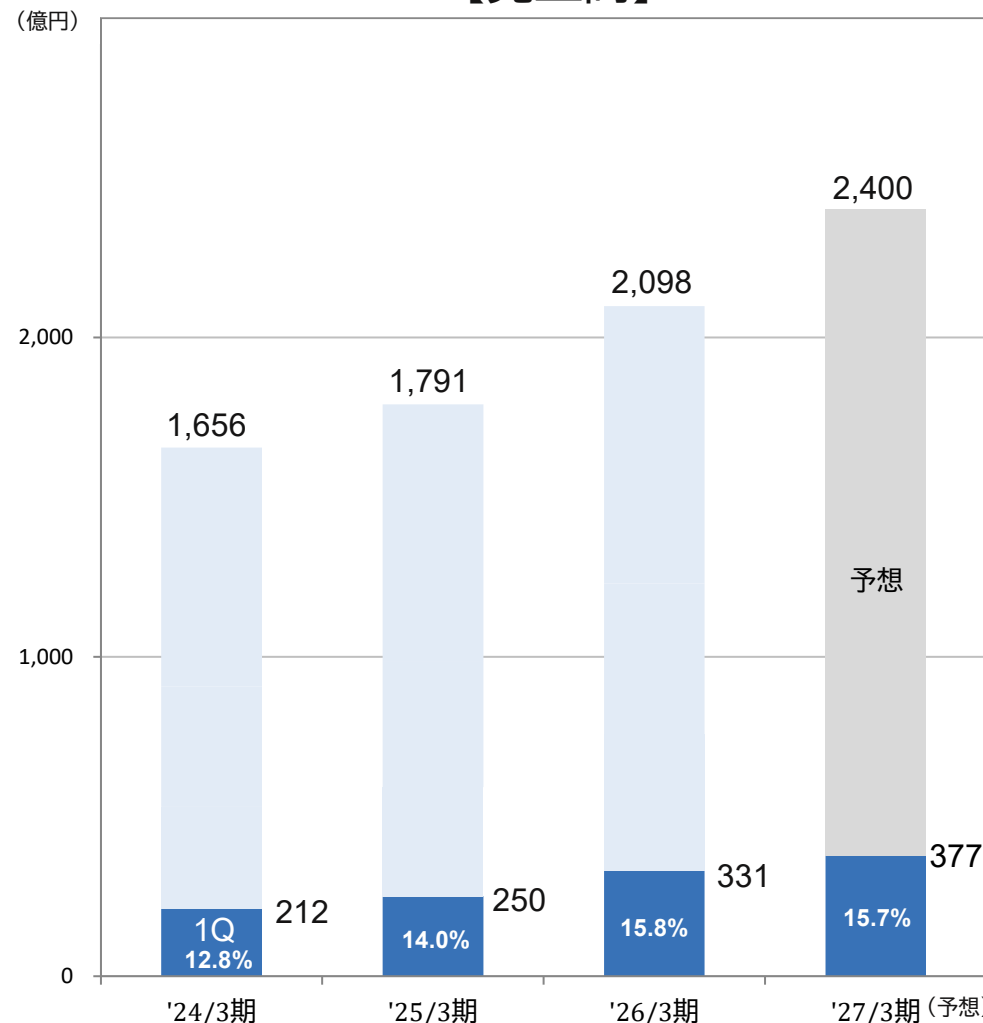
'27/3期1Q 受注高・売上高推移（連結）

当期の受注高（年間計画）は前期の大型案件の反動により減少。当1Qの受注高は、大型案件の受注により例年を上回る水準。当1Qの売上高は、例年並みの水準で計画通りに推移。

【受注高】



【売上高】

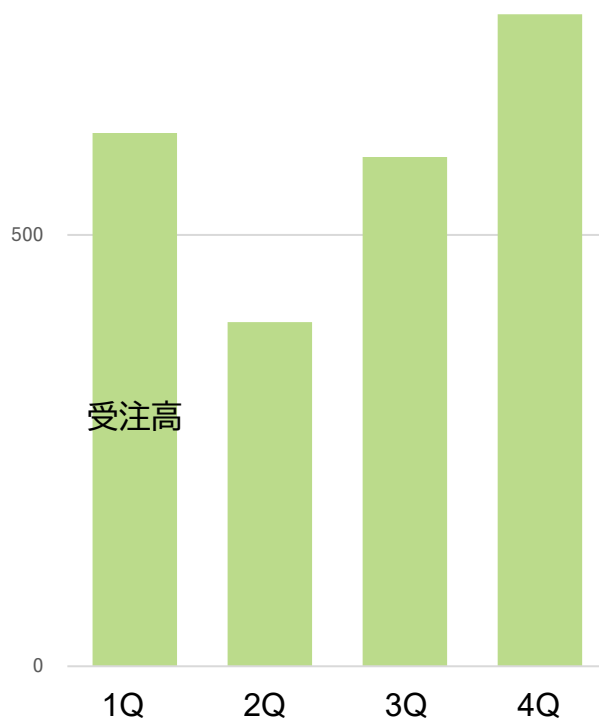


売上高・売上原価・販売管理費推移 (3か年平均値) '24/3期~'26/3期

売上高は、期末(3~4Q)に向け増加。売上原価も売上に連動し期末に向け増加。
販売管理費は各四半期ともほぼ同水準。営業利益は、期末(3~4Q)に向けて大幅に増加。

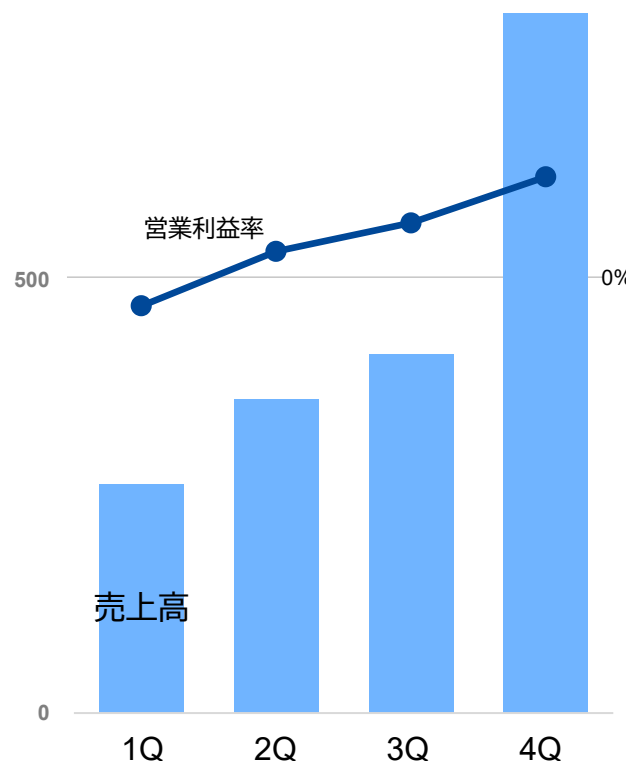
【受注高】

(億円)



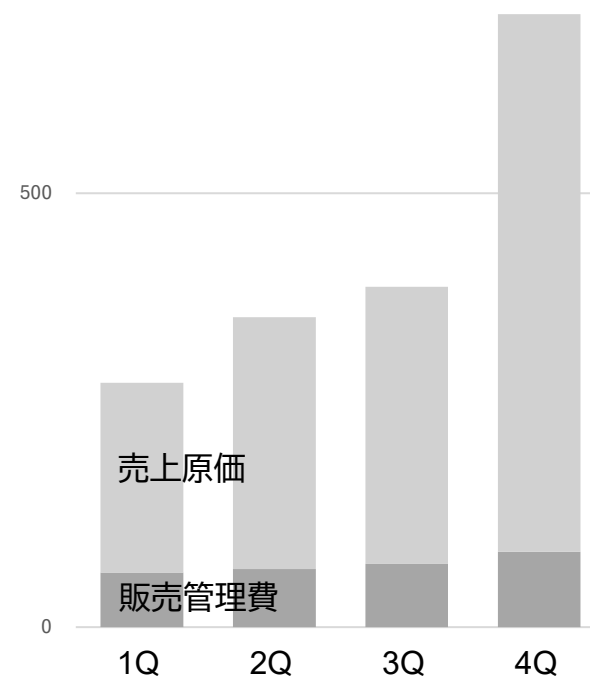
【売上高・営業利益率】

(億円)



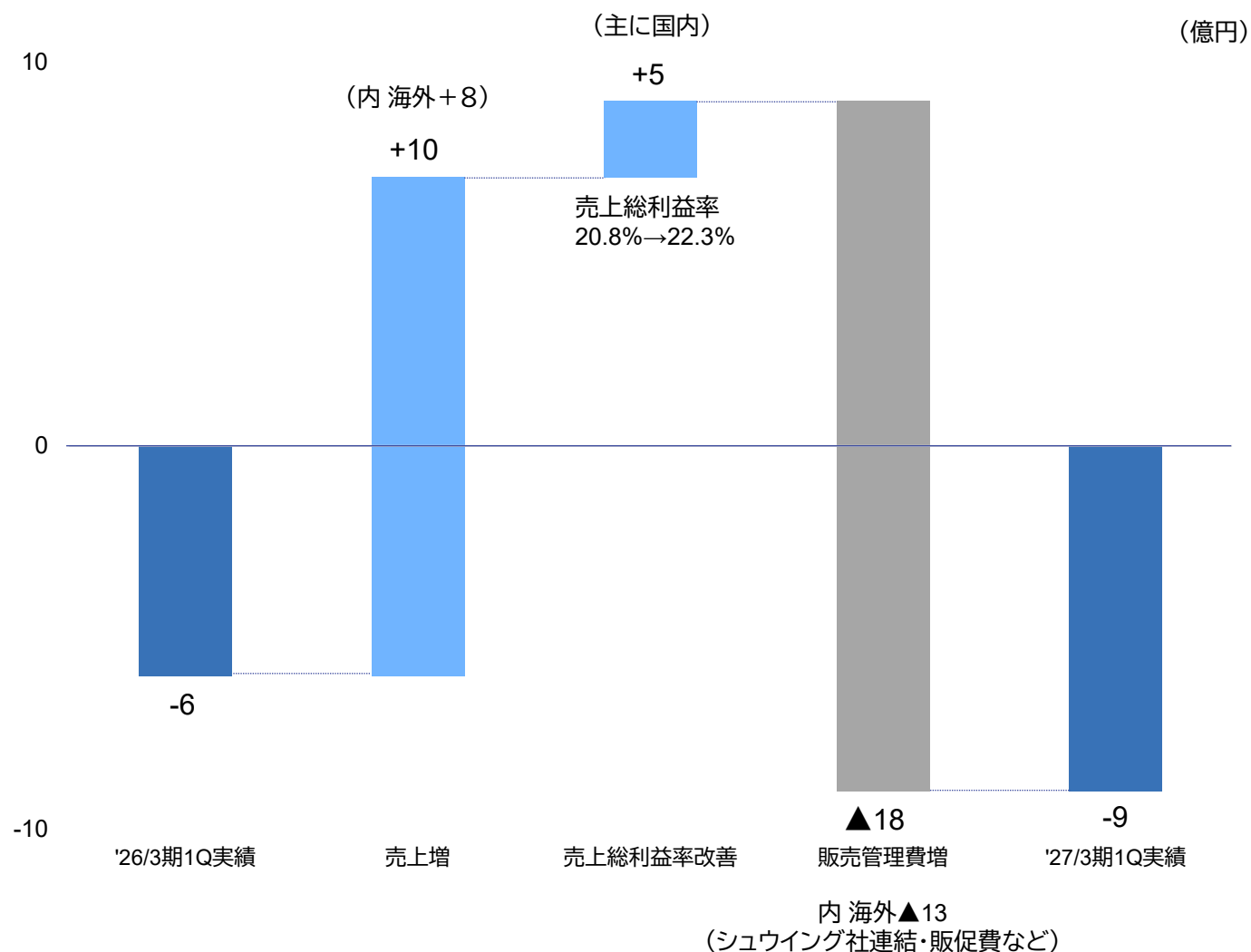
【売上原価・販売管理費】

(%) (億円)



'27/3期1Q 対前年 営業利益増減

主に、前年1Qには無かったシュウイング社の連結影響※(売上増、販売管理費増)により減益となった。



※シュウイング社は'26/3期2Qから連結開始

'27/3期1Q セグメント別 (連結)実績

METAWATER

(百万円)

	受注高			売上高			営業利益 (営業利益率)		
	'26/3期 1Q実績	'27/3期 1Q実績	前期比	'26/3期 1Q実績	'27/3期 1Q実績	前期比	'26/3期 1Q実績	'27/3期 1Q実績	前期比
環境エンジニアリング事業 (EE事業)	16,588	21,013	+4,425	8,553	9,497	+943	-427 -	-727 -	▲299
システムソリューション事業 (SS事業)	26,213	19,346	▲6,867	6,903	7,269	+365	-1,168 -	-1,141 -	+27
運 営 事 業	13,364	15,172	+1,807	5,802	6,126	+324	113 (2.0%)	239 (3.9%)	+126
海 外 事 業※1	13,478	18,729	+5,250	11,795	14,784※2	+2,988	879 (7.5%)	717※2 (4.8%)	▲161
合 計	69,645	74,262	+4,617	33,054	37,677	+4,622	-603 -	-910 -	▲306

【受注高】 海外事業および環境エンジニアリング事業のDBO、リサイクル施設向けが好調に推移し、前期を上回った。
なお、システムソリューション事業は、前期('26/3期1Q)に大型案件があった反動で前期を下回った。

【売上高】 海外事業におけるシュウイング社、E&P社の連結影響※3に加え、環境エンジニアリング事業において、大型建設工事が順調に推移したことなどにより増収。

【営業利益】 環境エンジニアリング事業における不具合対策処理や海外事業におけるシュウイング社の一部不採算案件の前倒し処理などにより、前期を下回った。

※1: 為替レート '26/3期1Q 152.6円/\$、'27/3期1Q 157.0円/\$

※2: 為替影響: 売上高 369百万円、営業利益 24百万円

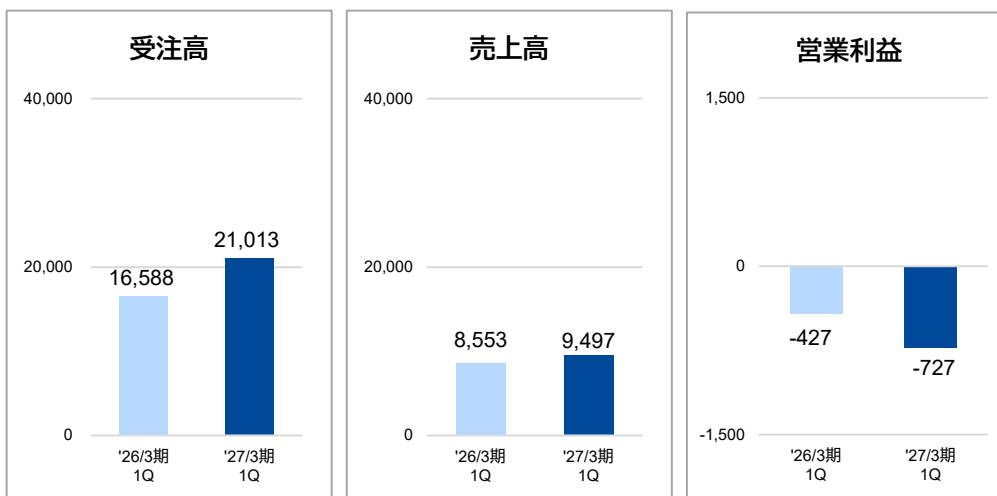
※3: シュウイング社は'26/3期2Q、E&P社は'26/3期3Qから連結開始

セグメント別 概要①

METAWATER

(百万円)

環境エンジニアリング事業



水環境事業および資源環境事業で構成。主たる業務は、国内の浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設向けの機械設備などの設計・製造および保守・維持管理など。

【受注高・受注残高】

受注高は資源環境事業が前期をやや下回ったものの、水環境事業が前期を上回った。

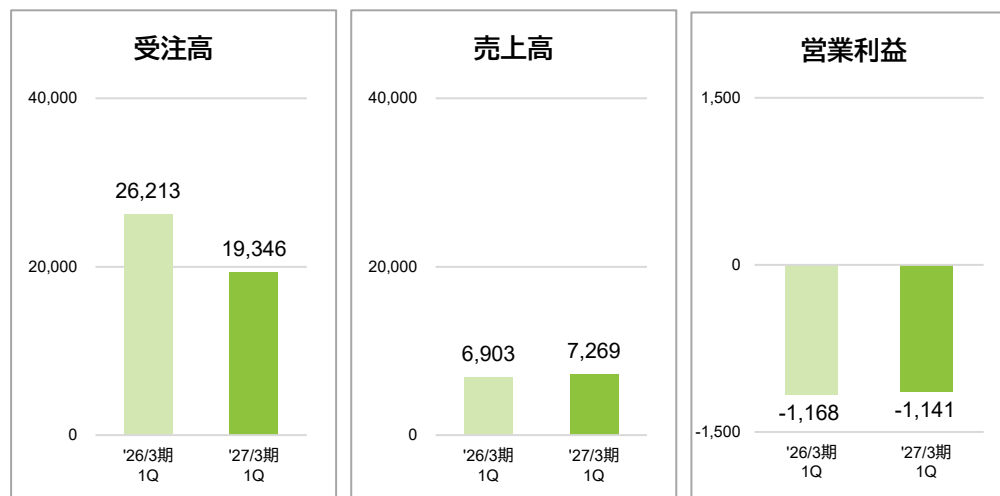
受注残高：109,549百万円→129,652百万円

【売上高・営業利益】

水環境事業においては、大型の建設工事が順調に推移し、売上高は前期を上回ったが、一部製品に関する不具合対策費用を計上したことにより、営業利益は前年を下回った。

資源環境事業においては、大型の建設工事が順調に推移し、売上高は前期と同水準になったが、一部建設工事の損益悪化および保守・維持管理の売上高減少などにより、営業利益は前期を下回った。

システムソリューション事業



システムエンジニアリング事業およびカスタマーエンジニアリング事業で構成。主たる業務は、国内の浄水場・下水処理場向けの電気設備などの設計・製造および保守・維持管理など。

【受注高・受注残高】

受注高はカスタマーエンジニアリング事業は前期を上回ったものの、システムエンジニアリング事業が前期の大型受注の反動減により前期を下回った。

受注残高：90,636百万円→109,130百万円

【売上高・営業利益】

システムエンジニアリング事業においては、大型工事が順調に推移し、売上高は前期を上回ったが、労務費の増加などにより、営業利益は前期をやや下回った。

カスタマーエンジニアリング事業においては、修繕工事が順調に推移し、売上高は前期と同水準となり、また一部案件の損益改善により、営業利益は前期を上回った。

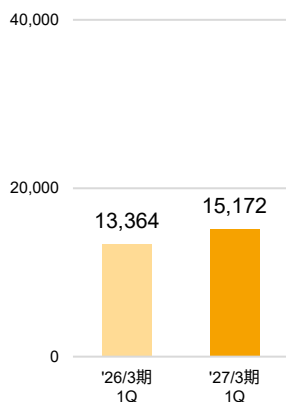
セグメント別 概要②

METAWATER

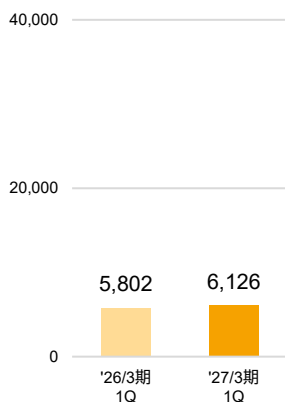
(百万円)

運営事業

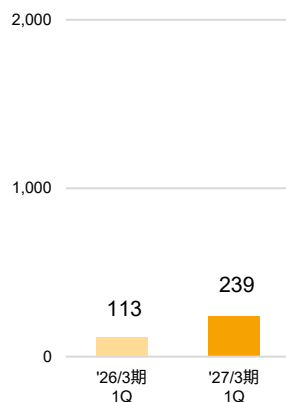
受注高



売上高



営業利益



メタウォーターサービス(株)、SPCほかで構成。主たる業務は、国内の浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設の運営事業。

【受注高・受注残高】

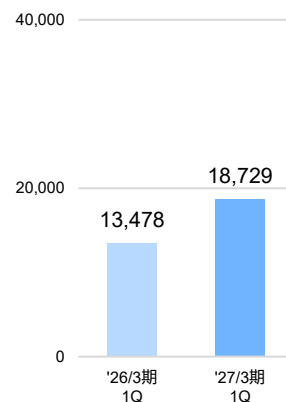
受注高は運転業務などの受注が好調に推移し、前期を上回った。
受注残高: 110,582百万円 → 127,480百万円

【売上高・営業利益】

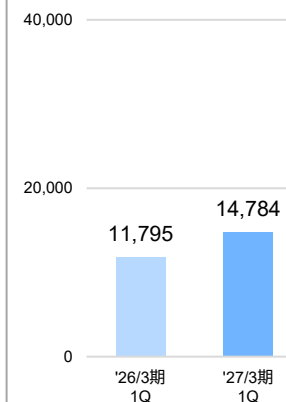
サービス子会社が順調に推移したことにより、売上高・営業利益共に前期を上回った。

海外事業

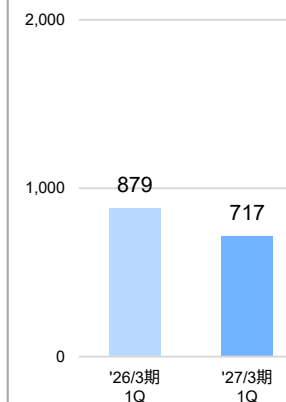
受注高



売上高



営業利益



Aqua-Aerobic Systems, Inc. (北米)、Rood Wit Blauw Water B.V. (欧州)などの海外子会社ほかで構成。主たる業務は、海外の浄水場・下水処理場向けの施設・設備の設計・建設および保守・維持管理ならびに民需事業。

【受注高・受注残高】

受注高は北米および欧州子会社の主力製品を中心に引き合いが好調に推移し、前期を上回った。

受注残高: 44,522百万円 → 59,621百万円

【売上高・営業利益】

北米子会社および欧州子会社が順調に推移し、売上高は前期を上回ったが、シュウイング社の低収益案件の影響により、営業利益は前期を下回った

- * うち為替影響: 売上高369百万円、営業利益 24百万円
- * 海外子会社買収時の「のれん」ほか無形固定資産などの償却(3億円)処理後
- * 為替レート: '26/3期1Q 152.6円/\$、'27/3期1Q 157.0円/\$

I 2027年3月期第1四半期決算ハイライト

II 2027年3月期第1四半期決算概要
(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)

III 参考資料

'27/3期1Q 連結損益計算書(対前年増減)

	'26/3期 1Q実績	'27/3期 1Q実績	(百万円) 増 減	(百万円)
売上高	33,054	37,677	+4,622	売上高 増減
売上総利益	6,881	8,409	+1,527	主に海外事業が好調に推移 うち為替影響 + 369
営業利益	-603	-910	▲306	営業利益 増減
(営業利益率)	-1.8%	-2.4%	▲0.6%	売上増影響
営業外損益	-61	47	+109	売上総利益率改善 (20.8%→22.3%)
経常利益	-665	-861	▲195	販売管理費増
特別損益	-5	-	+5	営業外損益 増減
税金等調整前 四半期純利益	-671	-861	▲190	為替差損益(-152 ⇒ 134)
法人税等	247	-247	▲494	外貨建資産の評価益が発生
非支配株主に帰属する 四半期純利益	84	97	+12	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-1,003	-711	+292	

連結貸借対照表

資産:当1Q末は、売上債権・契約資産の回収により現金・預金が増加。

負債:仕入れ代金の支払いなどにより買掛債務が減少。

(百万円)

	'26/3期 期末実績	'27/3期 1Q末実績	増 減
現 金 ・ 預 金	27,266	59,372	+32,106
売上債権・契約資産	109,932	62,121	▲47,810
仕 掛 品 ・ 貯 蔵 品	14,315	18,128	+3,812
そ の 他	11,640	9,254	▲2,386
流 動 資 産 計	163,154	148,875	▲14,278
有 形 固 定 資 産	13,835	18,593	+4,758
無 形 固 定 資 産	22,798	22,467	▲330
繰 延 税 金 資 産	3,149	3,175	+25
そ の 他 ^{*3}	17,355	17,426	+71
固 定 資 産 計	57,138	61,663	+4,525
総 資 産 計	220,292	210,539	▲9,753

	'26/3期 期末実績	'27/3期 1Q末実績	増 減
買 掛 債 務	37,570	25,729	▲11,841
短 期 借 入 金 ^{*1}	(711) 711	(715) 715	+3
契 約 負 債	19,495	27,902	+8,406
そ の 他	21,481	16,992	▲4,488
流 動 負 債 計	79,259	71,339	▲7,919
社 債 ・ 長 期 借 入 金 ^{*2}	(13,883) 38,900	(13,541) 38,558	▲342
そ の 他	7,981	7,905	▲76
固 定 負 債 計	46,882	46,464	▲418
負 債 計	126,142	117,803	▲8,338
純 資 産 計	94,150	92,735	▲1,415
負 債 ・ 純 資 産 合 計	220,292	210,539	▲9,753

*1 *2 :カッコ内の数値はPFIなどプロジェクトファイナンス・ローンの金額

*3 :繰延資産含む

連結キャッシュ・フローの状況

前期1Qにおける大型回収の反動により、営業キャッシュフローは前年同期比で減少しているものの、概ね計画通りの進捗。

(百万円)

	'26/3期 1Q実績	'27/3期 1Q実績	増 減	
現金・現金同等物の前期残高	35,683	26,736	▲8,947	
営業キャッシュ・フロー	44,618	38,763	▲5,855	売上債権回収 ▲8,817
投資キャッシュ・フロー	-3,542	-4,924	▲1,382	
フリー・キャッシュ・フロー	41,076	33,839	▲7,237	
財務キャッシュ・フロー	-4,545	-1,744	2,801	
現金・現金同等物の期末残高	72,214	58,830	▲13,384	



目次

I 2027年3月期第1四半期決算ハイライト

II 2027年3月期第1四半期決算概要

(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)

III 参考資料

'27/3期 セグメント別（予想）

METAWATER

（百万円）

	受注高			売上高			営業利益（営業利益率）		
	'26/3期 実績	'27/3期 予想	前期比	'26/3期 実績	'27/3期 予想	前期比	'26/3期 実績	'27/3期 予想	前期比
環境エンジニアリング事業 （EE事業）	75,410	74,000	▲1,410	58,475	68,000	+9,525	4,543 (7.8%)	5,000 (7.4%)	+457
システムソリューション事業 （SS事業）	86,880	65,000	▲21,880	61,154	66,000	+4,846	2,625 (4.3%)	2,900 (4.4%)	+275
運 営 事 業	48,555	38,000	▲10,555	33,455	40,000	+6,545	2,425 (7.2%)	2,500 (6.3%)	+75
海 外 事 業※	63,686	69,000	+5,314	56,759	66,000	+9,241	3,285 (5.8%)	4,600 (7.0%)	+1,315
合 計	274,532	246,000	▲28,532	209,844	240,000	+30,156	12,879 (6.1%)	15,000 (6.3%)	+2,121

【受注高】 システムソリューション事業の大型案件(予算外)の反動減があるものの、引き続き2,400億円水準を見込む。

【売上高】 国内は豊富な受注残高からの売上展開、海外は子会社のフル連結などにより全セグメントで増収を見込む。

【営業利益】 海外事業の収益改善および国内事業の増益を織り込み、営業利益、各利益共に増益とし、過去最高益を見込む。

※：為替レート '26/3期 149.6円/\$、'27/3期 予想レート 150.0円/\$

□環境エンジニアリング事業(略語:EE事業) 水環境事業、資源環境事業

国内浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設向け、機械設備の設計・建設および保守・維持管理を主たる業務としています。

□システムソリューション事業(略語:SS事業) システムエンジニアリング事業、カスタマーエンジニアリング事業

国内浄水場・下水処理場向け、電気設備の設計・製造および保守・維持管理を主たる業務としています。

□運営事業

国内浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設の運営を主たる業務としています。

□海外事業

海外浄水場・下水処理場向け、施設・設備の設計・建設および保守・維持管理ならびに民需事業を主たる業務としています。

略語	EPC	Engineering, Procurement and Construction: 設計・調達・建設
	O&M	Operation and Maintenance: 運転・維持管理
	PPP	Public-Private Partnership(公民連携): 公共サービスの提供に民間が参画する手法
	PFI	Private Finance Initiative: 公共施設の設計・建設、運転・維持管理、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
	DBO	Design, Build and Operate: 公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法
	コンセッション	公共施設の所有権と事業経営の許可を公的機関に残したまま、民間企業に事業運営権を長期間にわたって付与する手法

ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方にのっとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにのっとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様にとって有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算(四半期決算を含む)期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見通しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等など差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 経営企画室 コーポレートコミュニケーション部

Tel:03-6853-7317 Fax:03-6853-8709 E-mail:pr@metawater.co.jp